

「発掘ザ校友」は現役バリバリで活躍している鹿児島県の校友を発掘or再発掘し、皆さんに紹介・活動告知をするものです。その第三弾は渋谷俊彦さんです。渋谷さんは出水市出身、経済学部を卒業し、現在は出水市長として2期目を務められております。豪雨災害、世界同時不況による企業撤退、鳥インフルエンザ問題等、逆境にも負けず闘っています。校友の奮闘ぶりをお読み下さい。

逆境は人生最大の師なり～渋谷さんの闘魂

報道の渦中にあった人

昨年(平成10年)の暮れから今年の1月に渡り、鹿児島県北部にある出水市で起きた「鳥インフルエンザ」の事件は鹿児島県在住の人なら殆どが記憶にあると思います。後の3月11日にあった東日本大震災の発生で、影が薄くなりましたが、「鳥インフルエンザ」の発生した出水市はそれが収束するまで本当に大変な時期であったようです。そして、そこで首長として陣頭指揮をとっていたのが、校友でもある渋谷俊彦出水市長でした。テレビや新聞で騒がれる出水市の「鳥インフルエンザ」のニュースを見聞きする度に、報道陣に揉みくちゃにされながらも奮闘する渋谷さんに思いを馳せた校友も多かったのではないのでしょうか？

選挙陣中見舞い (平成22年4月3日)

去る平成22年4月3日、任期満了に伴う出水市長選挙に立候補を表明している現職で市町村合併後2期目を目指す校友の渋谷さんを激励する為、校友会鹿児島県支部は岩城前支部長、松下支部長、西村副支部長、西元事務局の4人で選挙事務所訪問、福島校友会会長からの推薦状を持参し、直接本人にお渡しいたしました。渋谷さんは丁度遊説から戻ってきたところで、我々を笑顔で迎えてくださいました。

しかし、選挙や市政の話になると、選挙は厳しい闘いになるが、当選したとしても苦しい闘いになる。誰が市長になっても4年の任期は苦しいものになるだろうと言っておられました。それから2週間経ち、4月18日には当選確実となり、校友一同喜んだのでした。

闘いは既に始まっていた。

平成22年4月20日の南日本新聞朝刊の渋谷さんの紹介記事には、記者のインタビューに答え「市は多くの課題を抱えており、次の4年間で大切。市民の期待に応えるため新たな決意で意義ある4年間にしたい」。厳しい選挙戦を経て体重も数キロ減った…とありました。

出水市といえば「ツルと歴史のまち」として有名ですが、バイオニア、NECという日本を代表する企業の工場があることでも有名でした。かつて歴代の出水市長は、式典や行事で必ずと言っていいほど「NECのある街、出水です…」という趣旨の挨拶していたそうです。しかし、渋谷さんの市長一期目(合併後)の任期中に、サブプライムローン問題が発生、アメリカの住宅バブル崩壊に端を発した世界同時不況は出水市

のような地方の町にも影響を及ぼしました。平成21年、2月に出水市のバイオニア鹿児島工場は閉鎖になり、511人の退職者、下請工場の連鎖倒産が起きました。また、その年の年には県北部豪雨災害で米之津川の水があふれて出水市街地が浸水に遭う等大きな被害を受けています。出水市は一地方自治体では抗することが不可能な世界同時不況と自然災害に翻弄され、大変な状況にあったと思います。

そして鳥インフルエンザ

二期目の任期1年目を終えようとした12月末、出水市を震撼させる事件が起きました。越冬で飛来したナベヅルが鳥インフルエンザに感染しているのが判明、それが引き起こす養鶏農家への感染の防御や観光の風評被害問題でした。以下は事件の真只中、平成23年1月7日に市の職員に訓示した内容です。この内容から出水市の当時の状況、渋谷さんの市政に対する思いが伝わってくると思います。

出水市職員への訓示 (平成23年1月7日)

御承知のとおり、ツルの高病原性鳥インフルエンザは、今のところ比較的落ち着いた状況にあらうかと思っています。職員の皆さん方をはじめ、立哨、消毒体制の充実、市民への啓発活動等、それぞれの分野で積極的に協力を頂いているおかげさまで現在の小康状態を保っていると思っています。しかしながら、ここで気を緩めることなく、更にしっかりと防疫体制を確立していかなければならないと思っています。特に、国・県においても積極的な指導、助言を頂いているところですので、一体となって、これ以上の感染が拡大しないように、特に一大産業の養鶏事業にこのことが災いにならないように、更に細心の注意を払って万全の体制を構築していきたいと思っています。

昨日からタンクローリーでの消毒の散水も始まっているようですが、本日改めてその出発式を行って、市民の方々にもより積極的な協力を呼び掛けていきたいと考えています。特に、消毒ポイントや通行規制を掛けているポイント等において職員の皆さん方が年末年始の休みも返上して取り組んでいただいたことには改めて感謝を申し上げます。そういう行動こそが市民の皆さん方に感銘を与え、市民の方々から職員の行動への評価がなされると思っていますし、そのことが市民の方々からの行政に対する協力意識にもつながってくるのではないかと考えていますので、皆さんの努力に感謝したいと思っています。(出水市WEB 市長のメッセージより引用)



プロフィール

昭和17年出水市生まれ。
 昭和42年東洋大学 経済学部卒業。
 代議士秘書などを経て、昭和57年合併前の旧出水市議会議員に初当選。平成7年3月まで市議を4期務める。平成2年11月～平成4年11月旧出水市議会副議長。平成4年11月～平成6年11月旧出水市監査委員(議員選出)。
 平成11年～18年3月旧出水市長を2期務める。市町村合併後初の出水市長選挙で当選を果たし、平成22年4月から現職(合併後2期目・通算4期目)。



平成22年12月22日 南日本新聞朝刊



平成23年1月26日 南日本新聞朝刊

PC 出水市 検索
 出水市長の部屋 検索